(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-197196
(P2017-197196A)
(43)公開日　平成29年11月2日(2017.11.2)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
B65D 41/58	(2006.01)	B65D 41/58	A	3E084

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 12 頁）

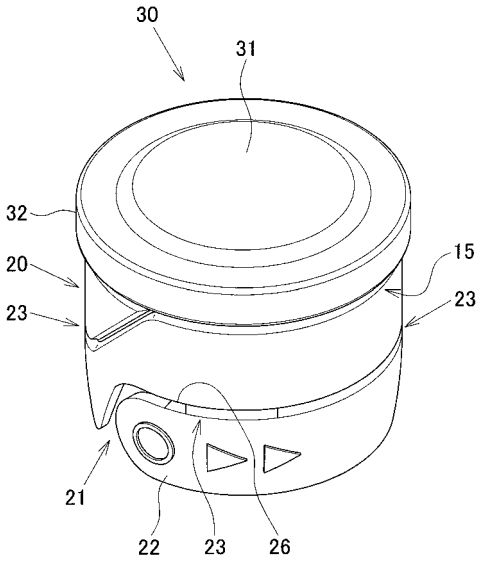
(21)出願番号　特願2016-86701(P2016-86701)
(22)出願日　平成28年4月25日(2016.4.25)

(71)出願人　000158688
きた産業株式会社
大阪府大阪市生野区桃谷１丁目３番９号
(74)代理人　100072213
弁理士　辻本　一義
(74)代理人　100119725
弁理士　辻本　希世士
(74)代理人　100163670
弁理士　松田　裕史
(72)発明者　山口　裕之
大阪府大阪市生野区桃谷１丁目３番９号
きた産業株式会社内
(72)発明者　長野　憲一郎
大阪府大阪市生野区桃谷１丁目３番９号
きた産業株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】瓶用栓

(57)【要約】
【課題】　内栓の開封を容易に行うことができるとともに、デザイン性の向上を図ることができる瓶用栓を提供する。
【解決手段】　瓶の瓶口部に装着される内栓と、前記内栓における頭部の縁部から下方へ延設され、前記瓶口部を覆う側部とを備える瓶用栓であって、前記側部は、下端部から上方に向けて設けられる切込部と、前記切込部から連続するようにして、前記側部の外周に沿って周回する周回部と、周回間際に前記周回部から上方へ向けて形成される傾斜部とが交互に連続的に形成される薄肉部と、前記頭部と前記側部の境界にて、前記傾斜部に連結され前記側部の外周に沿って周回する分離薄肉部と、前記瓶の環状係合部に係止するよう前記側部の内側面に設けられる係合部と、前記薄肉部が設けられる位置に対応して前記係合部に設けられる間隙部とを備えてなり、前記頭部における縁部の外形が前記瓶口部の外形より大きく形成されることを特徴とする瓶用栓。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
瓶の瓶口部に装着される内栓と、前記内栓における頭部の縁部から下方へ延設され、前記瓶口部を覆う側部とを備える瓶用栓であって、
前記側部は、下端部から上方に向けて設けられる切込部と、
前記切込部から連続するようにして、前記側部の外周に沿って周回する周回部と、周回間際に前記周回部から上方へ向けて形成される傾斜部とが交互に連続的に形成される薄肉部と、
前記頭部と前記側部の境界にて、前記傾斜部に連結され前記側部の外周に沿って周回する分離薄肉部と、
前記瓶の環状係合部に係止するよう前記側部の内側面に設けられる係合部と、
前記薄肉部が設けられる位置に対応して前記係合部に設けられる間隙部とを備えてなり、
前記頭部における縁部の外形が前記瓶口部の外形より大きく形成されることを特徴とする瓶用栓。
【請求項２】
少なくとも前記内栓の上端面を覆設するカバー体が設けられる請求項１に記載の瓶用栓。
【請求項３】
前記カバー体は、前記内栓の上端面を覆設する天面部と、前記天面部から前記頭部の縁部を覆設するよう延設され、前記分離薄肉部の上端部に掛止される鍔部とから構成される請求項２に記載の瓶用栓。
【請求項４】
前記カバー体は、前記内栓の上端面を覆設する天面部と、前記天面部から前記頭部の縁部を覆設するよう延設され、前記縁部の係合手段に係合される鍔部とから構成される請求項２に記載の瓶用栓。
【請求項５】
前記内栓と前記側部は、前記分離薄肉部を介して一体成形される請求項１から請求項４のいずれか１項に記載の瓶用栓。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ガラス瓶等の瓶口部に装着される合成樹脂製の瓶用栓に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来より、一升瓶や四合瓶のように、内容物を小出しすることが多い瓶の瓶口部は内栓で密閉されており、内栓には封緘用外蓋が一体となるよう設けられている。例えば、瓶口に密嵌する内栓と、瓶口に外側から被さる合成樹脂製の封緘用外蓋とからなり、内栓が上端にフランジ部を備えた合成樹脂製の栓体と、栓体のフランジ部に上方からかしめ付けた金属板製のカバー板とで構成され、外蓋が内栓におけるフランジ部の外周部を半径外側から掴持する平面視リング状の嵌合部と、嵌合部の下端に引き千切り可能に連接したスカート部とで構成され、嵌合部の内周面に嵌合部の弾性に抗して内栓のフランジ部が上方から嵌合する環状溝を形成し、スカート部の内面には、瓶口の外周面の環状係合部に係合する係合部を備えるものが公知である（特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特許第２６６７１３３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】

【０００４】
しかしながら、上記構造では、内栓と封緘用外蓋とが別体とされており、スカート部を開切した後、内栓のフランジ部に嵌合部が嵌め込まれた状態で抜栓を行うため、内栓の開封時に当該嵌合部が内栓から脱離してしまう虞があり、係る際には内栓の開封に困難性を要するものであった。また、抜栓を容易にするために、嵌合部の外径を瓶口より大径となるよう設定することも可能であるが、係る際には嵌合部に作用する力がより大きくなるため、嵌合部と内栓の脱離を助長してしまうものであった。
【０００５】
また、内栓にはカバー板が固着されており、当該内栓のフランジ部に封緘用外蓋の嵌合部が嵌め込まれるため、カバー板と嵌合部における両者の印刷、配色等のデザインを合致させたうえで、瓶用栓全体のデザイン性を向上させるには困難性を要するものであった。
【０００６】
そこで、本発明はこのような問題点を解決するものであって、内栓の開封を容易に行うことができるとともに、デザイン性の向上を図ることができる瓶用栓を提供することを課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
前記問題点を解決するために、本発明の請求項１に記載の瓶用栓は、瓶の瓶口部に装着される内栓と、前記内栓における頭部の縁部から下方へ延設され、前記瓶口部を覆う側部とを備える瓶用栓であって、前記側部は、下端部から上方に向けて設けられる切込部と、前記切込部から連続するようにして、前記側部の外周に沿って周回する周回部と、周回間際に前記周回部から上方へ向けて形成される傾斜部とが交互に連続的に形成される薄肉部と、前記頭部と前記側部の境界にて、前記傾斜部に連結され前記側部の外周に沿って周回する分離薄肉部と、前記瓶の環状係合部に係止するよう前記側部の内側面に設けられる係合部と、前記薄肉部が設けられる位置に対応して前記係合部に設けられる間隙部とを備えてなり、前記頭部における縁部の外形が前記瓶口部の外形より大きく形成されることを特徴とするものである。
【０００８】
また、本発明の請求項２に記載の瓶用栓は、請求項１に記載の瓶用栓において、少なくとも前記内栓の上端面を覆設するカバー体が設けられるものである。
【０００９】
また、本発明の請求項３に記載の瓶用栓は、請求項２に記載の瓶用栓において、前記カバー体は、前記内栓の上端面を覆設する天面部と、前記天面部から前記頭部の縁部を覆設するよう延設され、前記分離薄肉部の上端部に掛止されるものである。
【００１０】
また、本発明の請求項４に記載の瓶用栓は、請求項２に記載の瓶用栓において、前記カバー体は、前記内栓の上端面を覆設する天面部と、前記天面部から前記頭部の縁部を覆設するよう延設され、前記縁部の係合手段に係合される鍔部とから構成されるものである。
【００１１】
また、本発明の請求項５に記載の瓶用栓は、請求項１から請求項４のいずれか１項に記載の瓶用栓において、前記内栓と前記側部は、前記分離薄肉部を介して一体成形されるものである。
【発明の効果】
【００１２】
本発明の瓶用栓では、薄肉部に連結される分離薄肉部を介して内栓と側部とが連結されるので、側部の開封時において、薄肉部及び分離薄肉部を介して、内栓と側部を容易に分離することができる。また、頭部における縁部の外形が瓶の外形よりも大きく形成されるので、内栓の開封時において、側部が分離された内栓に対して指を掛け易いものとなり、容易に開封することができる。
【００１３】

また、内栓における上端面に印刷等を施したり、上端面と縁部を適宜の配色等としたりすることで、瓶用栓全体のデザイン性を向上させることができ、意匠性に優れたものとすることができる。

【図面の簡単な説明】

【００１４】

【図１】本発明の実施例における瓶用栓の正面上方斜視図である。
【図２】本発明の実施例における瓶用栓の正面図である。
【図３】本発明の実施例における瓶用栓の背面図である。
【図４】本発明の実施例における瓶用栓の底面図である。
【図５】本発明の実施例における瓶用栓の右側面図である。
【図６】本発明の実施例における瓶用栓の左側面図である。
【図７】本発明の実施例における瓶用栓の図２のＡ－Ａ断面図である。
【図８】本発明の実施例における瓶用栓の図５のＢ－Ｂ断面図である。
【図９】本発明の実施例におけるカバー体を取り外した瓶用栓の正面上方斜視図である。
【図１０】本発明の実施例における瓶用栓の使用状態を示す断面図である。
【図１１】本発明の実施例における瓶用栓の開封状態を示す斜視図である。
【図１２】本発明の別実施例における瓶用栓の正面上方斜視図である。
【図１３】本発明の別実施例における瓶用栓の正面図である。
【図１４】本発明の別実施例における瓶用栓の図１３のＣ－Ｃ断面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１５】

以下、本発明の実施の形態における瓶用栓を図面に基づいて説明する。当該瓶用栓を瓶に装着した状態において、ガラス瓶等の瓶口部が設けられる側を当該瓶用栓の上方とし、瓶底部が設けられる側を当該栓の下方とする。

【実施例】

【００１６】

本発明に係る瓶用栓は、図１から図１１に示すように、瓶Ａの瓶口部Ａ２に装着される内栓１０と、内栓１０における頭部１２の縁部１４から下方へ延設され、瓶口部Ａ２を覆う側部２０とから構成されるものである。

【００１７】

内栓１０は、瓶Ａの瓶口部Ａ２に装着される上方が開口した栓体１１と、当該栓体１１の上端側から外径方向に向けて突出し、瓶口部Ａ２に上方から当接する頭部１２とが一体となるよう成形される。当該栓体１１の上端面は、頭部１２の上端面より突出するよう形成されており、栓体１１の下方部は、アルミ箔（図示しない）等で包まれている。また、図７から図９に示すように、頭部１２の上端面には、内栓１０の肉厚が略均等に成形可能となるよう、環状の溝部１３を形成してもよい。

【００１８】

また、頭部１２における外周の縁部１４は、上端面から下方側へ所定の肉厚を有しており、内栓１０の径方向に小径となるよう段状の分離薄肉部１５を介して下方へ延設され、瓶口部Ａ２を覆う側部２０と一体となるよう成形されている。当該分離薄肉部１５は、外側面の外周に沿って、環状に形成される。すなわち、当該側部２０は、内栓１０の頭部１２を介して栓体１１と一体となるよう成形されており、例えばポリプロピレン、具体的には低密度のポリプロピレン等の合成樹脂から成形される。

【００１９】

側部２０は、瓶Ａに装着された瓶用栓を開封する際に使用されるとともに、瓶Ａから脱着しないように瓶Ａの環状係合部Ａ２に装着されるものである。当該側部２０は、内栓１０における頭部１２から下方へ延設されて形成される。また、図１、図２及び図８に示すように、側部２０には、外側面から内側面に至るまで切込部２１が設けられる。当該切込部２１は、側部２０における略水平状の下端部から上方へ向けて設けられ、側部２０の一部を破断して摘み片２２を形成するものである。

【００２０】
切込部２１は、下端部から斜め上方に形成される曲線部２１ａと、下端部と略平行に形成される直線部２１ｂとから構成される。切込部２１は、これに限られるものではなく、１つ以上の曲線部から構成してもよいし、１つ以上の直線部から構成してもよく、これらを適宜組み合わせて構成することができるのは勿論である。また、切込部２１における始点近傍の側部２０は、略円弧状に形成されることが望ましい。
【００２１】
図１、図２及び図５に示すように、摘み片２２の外側面には、開封方向を示す矢印等を設けることもできるし、摘み片２２の外側面、内側面のうち、少なくともいずれか一方に滑り止め等を設けることもできる。
【００２２】
また、側部２０の外側面には、切込部２１の終端から連続するようにして薄肉部２３が設けられる。薄肉部２３は、摘み片２２を把持して開封方向に引き上げた際に、側部２０を容易に破断し得るよう、側部２０の上方に向けて外側面の外周に沿って設けられる。
【００２３】
薄肉部２３は、下端部と略平行であって側部２０の外周に沿って周回し、周回間際における薄肉部２３相互が連設することのない状態で斜め上方へ向けて形成され、再び下端部と略平行であって側部２０の外周に沿って周回するよう形成される。すなわち、薄肉部２３は、側部２０の外周に沿って周回する周回部２３ａと、周回間際に周回部２３ａから斜め上方へ向けて形成される傾斜部２３ｂとが交互に連続的に形成されるものである。これにより、開封時に薄肉部２３により破断される破断片は、略一定の幅を有するようにして形成される。
【００２４】
具体的には、薄肉部２３の周回部２３ａは、図１及び図２に示すようにして、切込部２１の直線部２１ｂから連続するようにして下端部と略平行に形成され、外側面の外周に沿って設けられる。そして、切込部２１の始点上方であって、摘み片２２近傍まで周回したところで、薄肉部２３の傾斜部２３ｂは斜め上方に向けて形成されるとともに、摘み片２２の上方位置にて、頭部１２と側部２０の境界となる分離薄肉部１５に連結するよう形成される。薄肉部２３は、これに限られることなく、破断片が略一定の幅を有することなく、単に螺旋状に形成してもよいし、その他適宜変更できるものである。
【００２５】
一方、側部２０における上方の内側面には、内径方向へ突出する係合部２４が設けられる。当該係合部２４は、例えば、環状に形成されており、瓶Ａの環状係合部Ａ２に係合されるものである。
【００２６】
係合部２４は、図７及び図８に示すように、所定の幅寸法を有してなり、一部に間隙部２５を設けて略環状に形成される。当該間隙部２５は、斜め上方へ向かう薄肉部２３の傾斜部２３ｂが設けられる位置に対応して形成される。これにより、係合部２４上には薄肉部２３が設けられることがないので、側部２０を摘み片２２から破断させる際には、破断される他の薄肉部２３と同様の引っ張り力を作用させることで開封することができる。また、図１０に示すように、係合部２４における上下方の内側面の径は、瓶口部Ａ２の径と略同等に形成される。
【００２７】
更に、切込部２１の一部に、連設片２６を設けることもできる。連設片２６は、切込部２１の一部を遮断して側部２０同士を連設するようにして形成され、薄肉部２３と同様にして容易に破断し得るように形成される。これにより、摘み片２２の大きさを最小限に留めることができるので、未開封時における側部２０の不用意な破断を防止することができる。
【００２８】
また、内栓１０には、デザイン性を向上させる点から、内栓１０の上端面及び縁部１４

を覆設するカバー体３０を設けることもできる。当該カバー体３０は、例えば、薄板状の金属板を折曲させることで形成され、上端面を覆設する天面部３１と、当該天面部３１から延設され縁部１４を覆設する鍔部３２とから構成される。天面部３１は、内栓１０の上端面に沿うようにして形成されており、具体的には、栓体１１の上端面に沿う内側平坦部と、頭部１２の上端面に沿う外側平坦部とが傾斜部を介して形成されている。また、カバー体３０は、金属板に限ることなく、合成樹脂等から成形することができるのは勿論である。

【００２９】

また、鍔部３２は、頭部１２の縁部１４を覆設するよう環状に形成されており、鍔部３２の下端部にて、内栓１０の内径方向に屈曲されることで分離薄肉部１５の上端部に掛止するよう形成される。このとき、頭部１２の縁部１４と鍔部３２との間に形成される空間部３３を設けることで、鍔部３２を側部２０よりも外径方向へ突出させて形成することができる。これにより、開封時において、頭部１２における縁部１４の外形と瓶Ａの外周面との段差よりも、鍔部３２を設けることでさらに瓶Ａの外周面との段差を大きくすることができるので、容易に開封することができる。

【００３０】

このようにして、内栓１０にカバー体３０を設けることで、開封時に分離される側部２０を合成樹脂製部分とし、内栓１０の栓体１１、頭部１２を金属製のカバー体３０にて被覆することで金属製部分とすることができるので、高級感を付与することができ、瓶用栓全体の意匠性を向上させることができる。

【００３１】

このようにして形成される瓶用栓は、図１０に示すようにして、瓶Ａに装着される。具体的には、瓶Ａに内容物を充填した後、瓶口部Ａ２に内栓１０を装着する。そして、内栓１０の頭部１２で瓶口部Ａ２を上方から覆うとともに、側部２０にて瓶Ａの外周面を覆い、係合部２４が環状係合部Ａ２に係合した状態で閉栓される。このとき、瓶用栓の内側面は、瓶Ａの外周面に密着した状態となる。

【００３２】

瓶用栓の開栓においては、図１１に示すように、摘み片２２を指で摘んで周方向に引き上げることにより、切込部２１から連続して形成される薄肉部２３及び分離薄肉部１５が破断し、内栓１０と側部２０とを分離して、内栓１０を露呈させることができる。このとき、薄肉部２３は、周回部２３ａと傾斜部２３ｂとが連続して形成されるので、開封途中において分断されることがない状態で分離薄肉部１５にまで至り、分離薄肉部１５が破断されることにより内栓１０と側部２０とを分離することができる。これにより、内栓１０のみが瓶Ａに装着された状態となり、当該内栓１０は再封可能な状態となる。

【００３３】

以上、説明した本発明に係る瓶用栓によれば、薄肉部２３に連結される分離薄肉部１５を介して内栓１０と側部２０とが連結されるので、側部２０の開封時において、薄肉部２３及び分離薄肉部１５を介して、内栓１０と側部２０を容易に分離することができる。また、頭部１２における縁部１４の外形が瓶Ａの外形よりも大きく形成されるので、カバー体３０が装着された内栓１０の開封時において、側部２０が分離された内栓１０に対して指を掛け易いものとなり、容易に開封することができる。

【００３４】

また、カバー体３０は、内栓１０における上端面の全領域を覆設することができるので、当該上端面に印刷等を施したり、上端面と鍔部３２を適宜の配色等したりすることで、瓶用栓全体のデザイン性を向上させることができ、意匠性に優れたものとすることができる。

【００３５】

上記実施例において、栓体１１と頭部１２とから構成される内栓１０、側部２０、カバー体３０等の形状を適宜変更して実施することが可能である。例えば、内栓１０にカバー体３０を設けない場合においては、内栓１０における上端面の全領域に印刷等を施したり

、当該上端面及び頭部１２を適宜の配色等したりすることができるのは勿論である。また、係る際において、上方が開口することのない栓体１１とすることができるのは勿論である。

【００３６】

また、図１２から図１４に示すように、カバー体３０の外形を６弁の花びら状等とすることもできるし、多角形状等のその他形状とすることもできる。係る際において、カバー体３０を内栓１０の上端面を覆設する天面部３１と、天面部３１から頭部１２の縁部１４を覆設するよう延設され、縁部１４の係合手段に係合される鍔部３２とから構成し、例えば、合成樹脂から成形することができるのは勿論である。当該係合手段においては、一方に形成される突出部が他方に形成される溝部に係合するもの等を採用することができる。

【００３７】

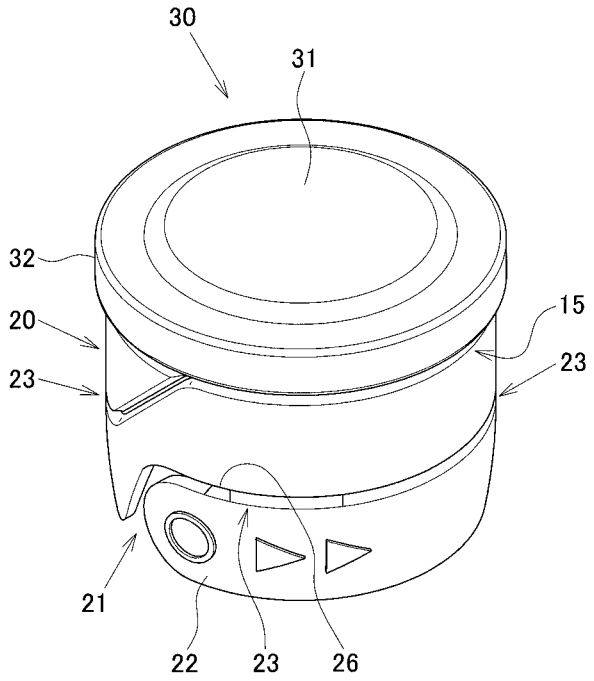
また、カバー体３０においては、鍔部３２を設けることなく、内栓１０の上端面を覆設する天面部から構成することもできる。すなわち、カバー体３０は、少なくとも内栓１０の上端面を覆設するものであればよく、頭部１２における縁部１４の外形が瓶口部Ａ２の外形より大きく形成されてあればよい趣旨である。また、一部構成を省略することができるし、一部抽出した構成とすることができるのは勿論である。

【符号の説明】

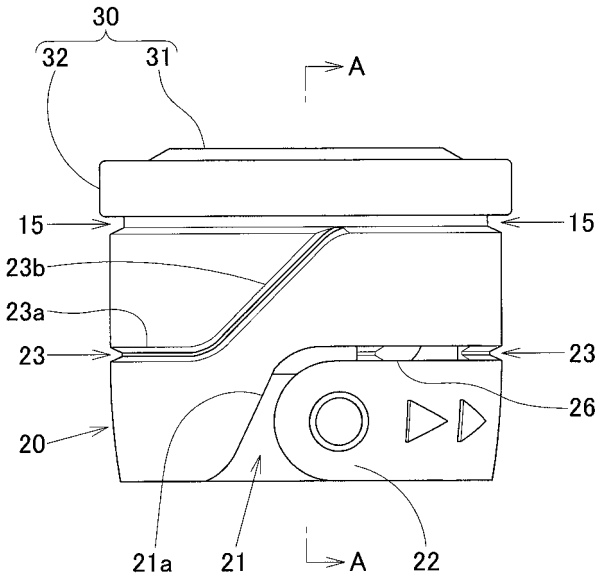
【００３８】

１０　内栓
１１　栓体
１２　頭部
１３　溝部
１４　縁部
１５　分離薄肉部
２０　側部
２１　切込部
２１ａ　曲線部
２１ｂ　直線部
２２　摘み片
２３　薄肉部
２３ａ　周回部
２３ｂ　傾斜部
２４　係合部
２５　間隙部
２６　連設片
３０　カバー体
３１　天面部
３２　鍔部
３３　空間部
Ａ　瓶
Ａ１　瓶口部
Ａ２　環状係合部

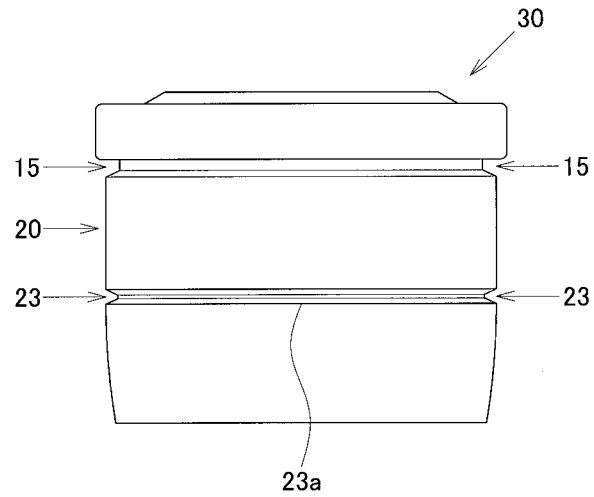
【図１】


30
31
32
20
23
15
23
21
22
23
26

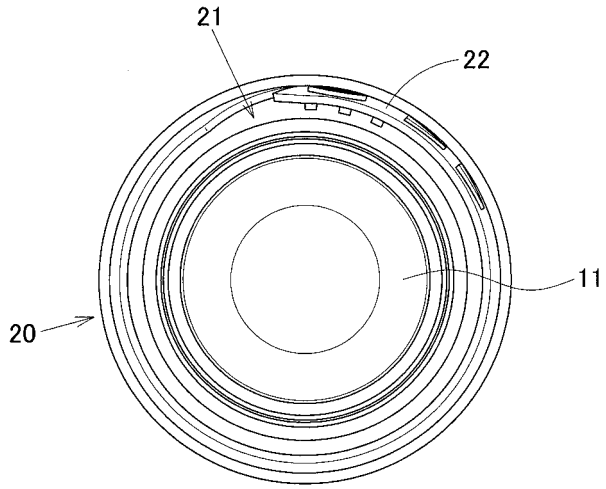
【図２】


30
32
31
A
15
15
23b
23a
23
23
26
20
21a
21
A
22

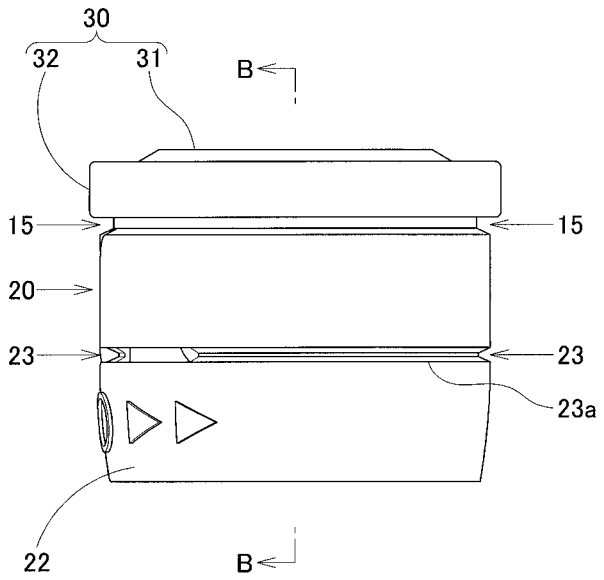
【図３】


30
15
15
20
23
23
23a

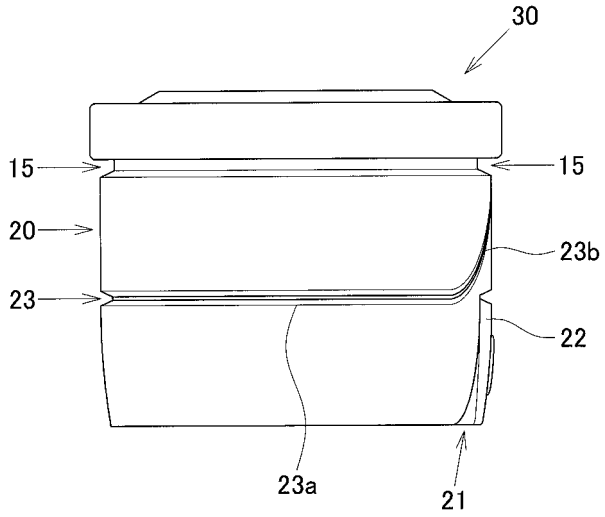
【図４】


21
22
11
20

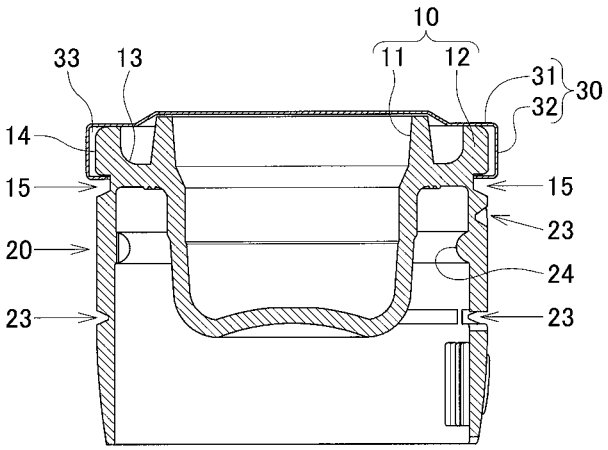
【図５】


30
32
31
B
15
15
20
23
23
23a
22
B

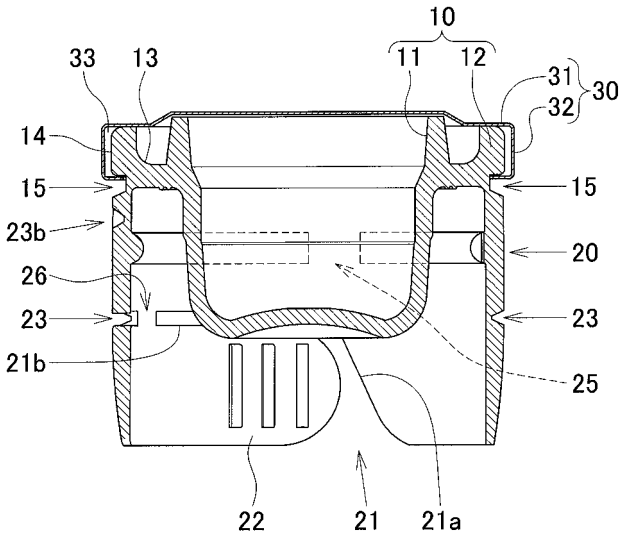
【図６】


30
15
15
20
23b
23
22
23a
21

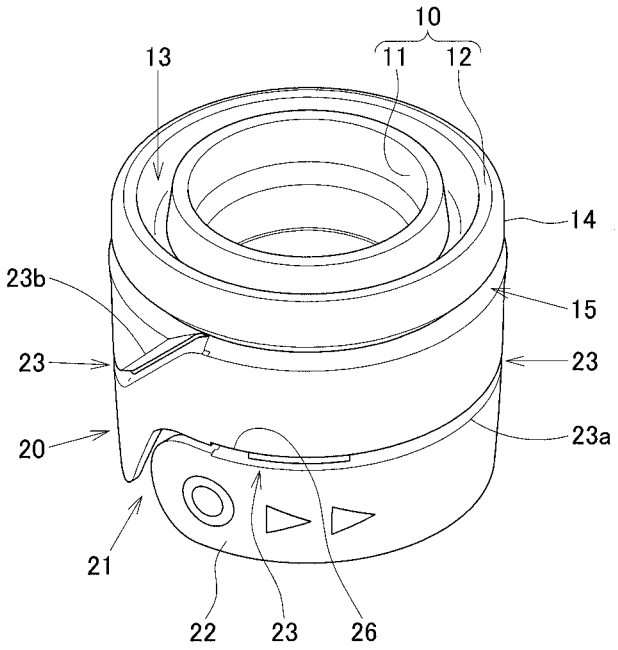
【図７】


10
33
13
11
12
31
30
32
14
15
15
20
23
24
23
23

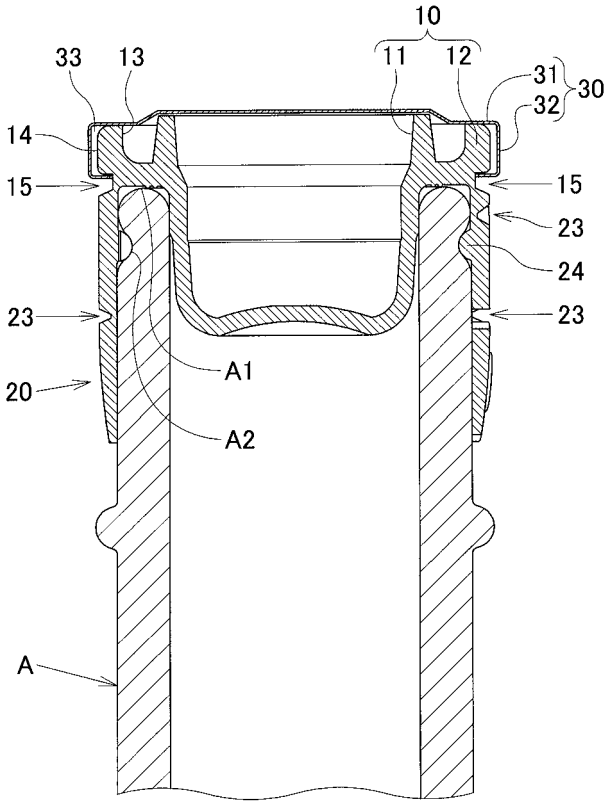
【図８】


10
33
13
11
12
31
30
32
14
15
15
23b
20
26
23
23
21b
25
22
21
21a

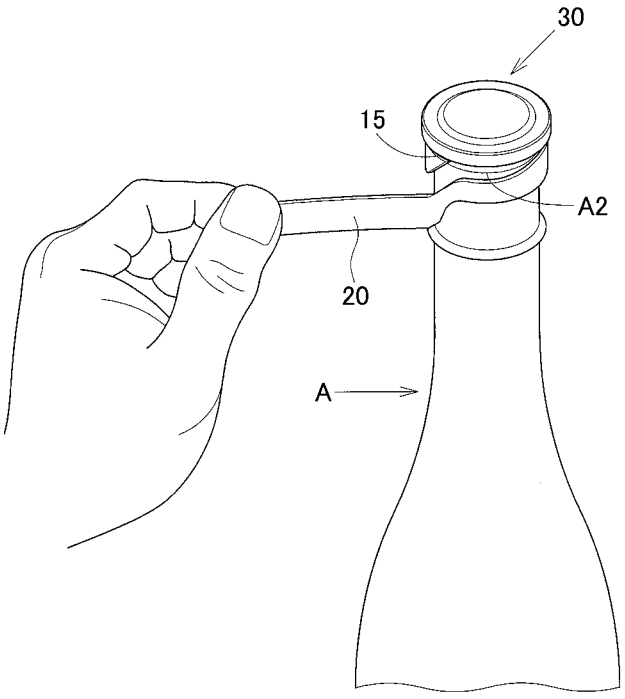
【図９】



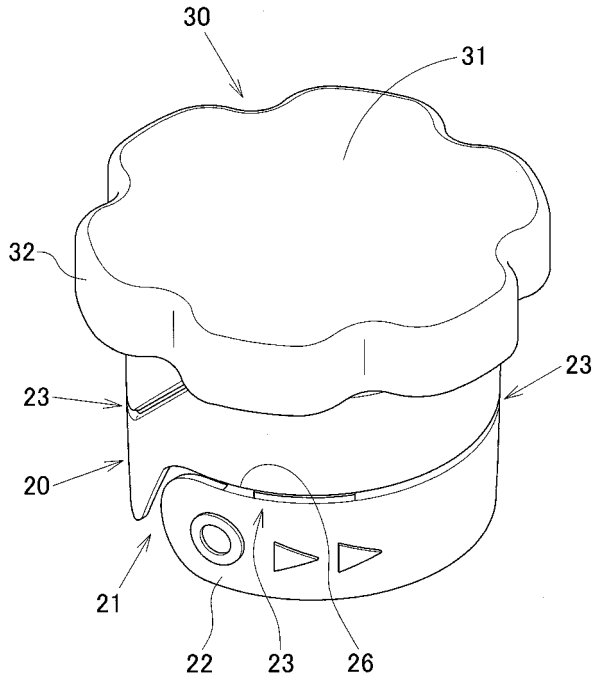
【図１０】



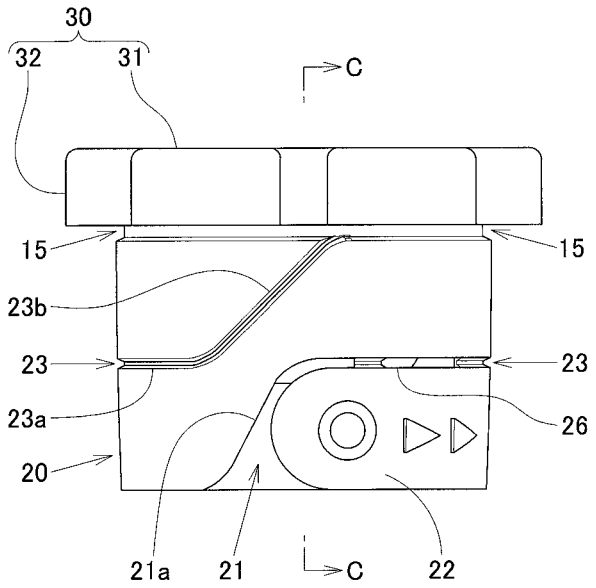
【図１１】



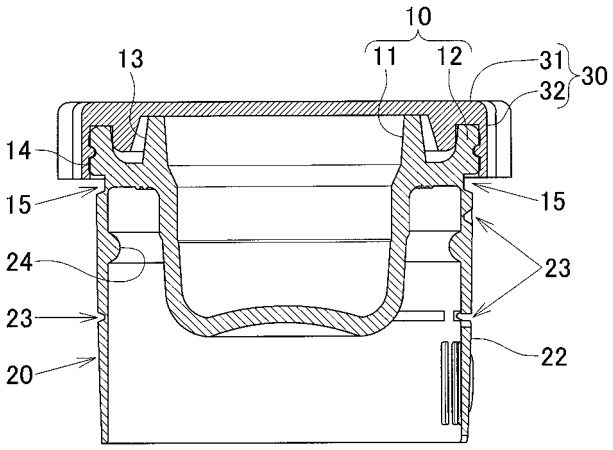
【図１２】



【図１３】


30
32
31
C
15
15
23b
23
23
23a
26
20
21a
21
C
22

【図１４】


10
13
11
12
31
32
30
14
15
15
24
23
23
20
22

フロントページの続き

(72)発明者　芳賀　剛
大阪府大阪市生野区桃谷１丁目３番９号　きた産業株式会社内
(72)発明者　喜多　常夫
大阪府大阪市生野区桃谷１丁目３番９号　きた産業株式会社内

Ｆターム(参考) 3E084 AA12 AA32 BA02 CA01 CC01 DA01 DB02 DB05 DB09 DC05
EA03 EC05 FA09 FC07 GA08 GB08 GB12 GB17 JA19